

TOPICS

1

三井倉庫ホールディングスと連携・協力協定を締結



本学と三井倉庫ホールディングス株式会社(三井倉庫HD)は3月18日、連携・協力に関する協定を締結しました。

三井倉庫HDは、日本の医療の未来を物流から支えるため、ライフサイエンス分野での物流サービスの開発に注力してきました。その一環として、2015年から、本学とバイオバンクに関する共同研究を開始。「岡山大学病院バイオバンク」における検体の保管に関する研究や、企業などによる保管検体の利活用を支援する研究などに取り組み、2019年には、「iPS細胞を含む臨床研究検体等の極低温管理・保管・輸送一貫サービス」を事業化するなどの成果を挙げています。これらの成果を基盤に、さまざまな領域を対象を広げて共同研究を促進するとともに、交流の活発化や人材育成の相互支援を通じてさらなる学術研究の振興と研究成果の社会活用を図るため、このたび包括的な連携・協力に関する協定を締結することとなりました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9229.html



TOPICS

2

法学部に「法曹コース」を中四国地域で初めて設置

本学法学部と大学院法務研究科との間の法曹養成連携協定が2月28日、文部科学省から認定されました。これを受け、法学部に4月から「法曹コース」を設置します。

「法曹コース」は、法曹を志す皆さんに、法学部と法科大学院との間でのより効果的な一貫教育を提供することを目指す制度です。コース生は法科大学院の基本科目を前倒して学び、所定の条件をクリアすることで、3年で大学を早期卒業し、法科大学院の「法学既修者コース」(2年)に入学することが可能となり、法学部・法科大学院を合計5年で修了できるようになります。

法学部および大学院法務研究科は、今後連携をより強化し、本学法学部卒業後にそのまま本学大学院法務研究科に進学するルートをさらに充実させていきます。より多くの高校生が法曹の道を志しやすい環境を整備し、中四国地域の中核的法曹養成機関としての役割を果たしていきます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9169.html



Pick up!

地球憲章発足20周年！ 新ビジュアルアイコンを伝える一人に横井副学長が選出



公正で平和な、持続可能な21世紀の地球社会を迎えるための価値や原則を明らかにした「地球憲章」が今年で発足20周年を迎えるにあたり、地球憲章国際本部(ECI)が、新たな公式ロゴとビジュアルアイコンを公表しました。本学の横井篤文副学長(特命(海外戦略)担当)・ユネスコチェアホルダーが新たなビジュアルアイコンを伝える世界の1人として選出され、地球憲章国際本部の公式HPから世界に向けてメッセージを発信しています。

本学が推進する持続可能な開発のための教育(ESD)に関する新たな枠組み「持続可能な開発のための教育:SDGs達成に向けて(ESD for 2030)」と、その倫理的な枠組みとして「地球憲章」が昨年11月に開催された第40回国連教育科学文化機関(ユネスコ)総会で採択されたのを受けて、榎野博史学長と横井副学長・ユネスコチェアホルダーは同年12月にUPEACEおよびECIを訪問。ESDと地球憲章を統合的に取り組み、ESD for 2030を推進することで基本合意をしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9208.html



TOPICS

3

歴史民俗博物館と連携・協力協定を締結

2月28日、大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立歴史民俗博物館と連携・協力に関する協定を締結しました。本協定は、岡山大学と歴史民俗博物館が、双方の教育研究活動の一層の充実を図るとともに、その成果の普及を促進することにより、学術の発展と人材の育成に寄与することを目的としています。

文学部会議室で行われた調印式では、今津勝紀大学院社会文化科学研究科教授（附属図書館長）が協定書の概要説明を行った後、久留島浩歴史民俗博物館長と榎野博史学長が協定書に署名しました。榎野学長は、調印式で「本協定によりお互いの事業を連携させることで、教育・研究・社会貢献の充実を図るとともに、本学が全学を挙げて推進しているSDGs達成に向けて、歴史文化資源の有効活用につなげたい」とあいさつしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9168.html



TOPICS

4

SDGsアンバサダーが立命館大学、芝浦工業大学の学生と交流



2月27日、立命館大学で開催された2019年度滋賀県内SDGs補助金受給団体成果報告会「xChannel」に、本学SDGsアンバサダーである大野さくらさん（理学部2年）と宮本あゆはさん（法学部2年）が参加しました。

立命館大学で補助金を受給した3団体（立命館大学Sustainable Week実行委員会、TaBiwa+R、立命館大学COMARS）が、それぞれの活動について報告した後、芝浦工業大学SDGs学生委員会-綾いと-及び本学SDGsアンバサダーを交えて、トークセッションを行いました。各大学の学生によるSDGsへの取り組みや課題について意見交換するなど、本学のSDGsアンバサダーにとっては、学びが多く、今後活動を進める上で参考となることばかりでした。意見交換後は、立命館大学の学生が、立命館大学Sustainable Weekの実施状況や日頃の活動状況を説明しながら、キャンパス内を案内。今後の交流と再会を約束して、キャンパスを後にしました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9185.html

PRESS
RELEASE

チタンがそのまま接着材に！ 全く新しい生体軟組織用接着材を開発

大学院医歯薬学総合研究科(歯)生体材料学分野の松本卓也教授、岡田正弘准教授らの共同研究グループは、医療用金属材料であるチタンを表面処理することで、このチタンが真皮や筋膜などの生体軟組織と瞬時に接着することを見出しました。この研究成果は3月23日、ドイツ科学誌「Advanced Materials Interfaces」のオンライン電子版で公開されました。

本チタン材料は一般的なチタン薄膜を一定温度下で酸処理しただけのものです。簡単な処理に関わらず、このチタン薄膜は生体軟組織、特に真皮組織や筋膜組織に高い接着力を示すことが見出されました。

本研究成果は、簡便かつ迅速に強い接着力を示す生体親和性に優れた新しい接着材として、インプラントブルセンサや医療用デバイスの体内固定への応用、組織接合や組織変形矯正など簡便な外科処置への応用が期待されます。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id710.html

